



北九州医療・介護連携プロジェクト とびうめ@きたきゅう モデル実施結果



令和2年4月

公益社団法人福岡県医師会
公益社団法人北九州市医師会
北九州市（北九州医療・介護連携プロジェクト会議事務局）



とびうめ@きたきゅう

福岡県医師会診療情報ネットワーク

○令和元年11月より、北九州市が、登録をした高齢者等の医療・介護・健診情報を、「とびうめネット」を通じて医療機関に提供する「とびうめ@きたきゅう」のモデル事業を八幡東区・八幡西区で開始しました。

○モデル事業での高齢者等の登録状況、医療機関での活用状況をまとめたものです。(令和2年2月29日時点)

1. とびうめ@きたきゅうで実現する姿

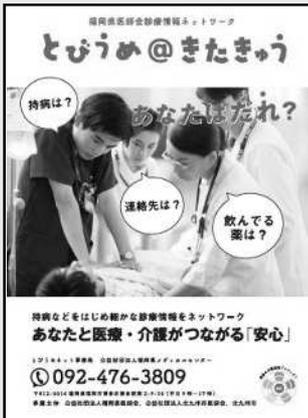


製鉄記念八幡病院での活用状況



西野病院での活用状況

2. 医療・介護関係者みんなで登録の声かけ



【登録申出書(表紙)】

【登録申出書の説明・取得先】

- 病院
 - 訪問看護ステーション
 - 介護老人保健施設
 - 歯科診療所
 - 在宅医療・介護連携支援センター
 - 区地域包括支援センター
 - 診療所
 - 特別養護老人ホーム
 - ケアマネ事業所
 - 薬局
 - 区保健福祉課
- ※民生委員・児童委員、自治会・町内会でも声かけを実施。

大切な患者・利用者
に声かけ

★いつ、誰が、誰に声かけしてもよい

★本人の署名だけ(印鑑・添付書類不要)

★返送用封筒で送るだけ

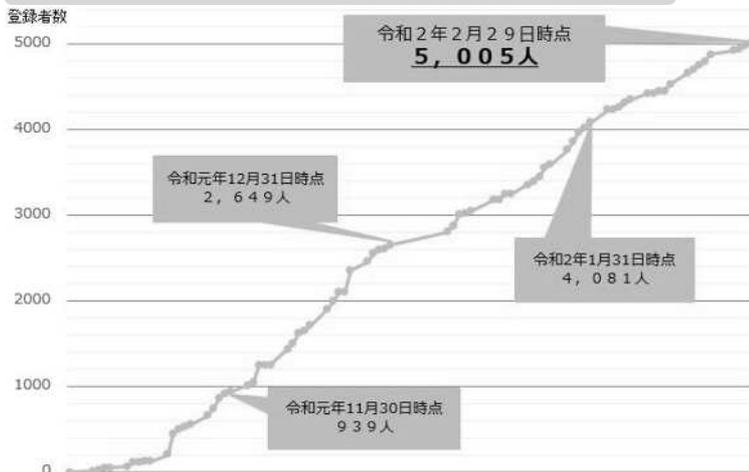
※ケアマネは八幡東・西区役所(介護保険係)への持込もOK

登録手続
はカンタン!!



とびうめネット事務局がとびうめ@きたきゅうに登録します

3. 新規登録者数(令和元年11月~翌2月の4カ月間)



要介護前の
健康な人も加入!!

年代	割合
100歳以上	0.5%
90歳代	15.9%
80歳代	47.6%
70歳代	28.9%
60歳代	5.8%
60歳未満	1.3%

(参考1: 八幡東区・西区) 要支援・要介護認定者数 22,572人 高齢者数 98,201人 ※R2.1.31時点

(参考2) とびうめ@きたきゅうモデル事業開始前のとびうめネット登録者数

八幡東区・八幡西区 290人、北九州市内 1,093人 ※R1.6.1時点

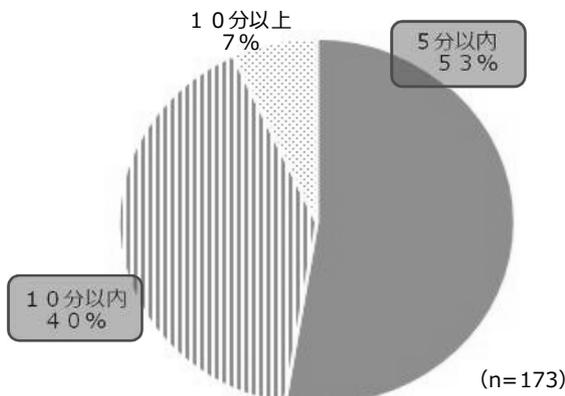
※上記人数はとびうめ@きたきゅうの登録者数には含まれません。

4. 種別ごとに集めた登録者数とアンケート結果

種別	取得した登録者数	
病院	348	7.0%
診療所	1,126	22.5%
訪問看護ステーション	150	3.0%
ケアマネ事業所	1,616	32.3%
特別養護老人ホーム	343	6.9%
介護老人保健施設	103	2.1%
薬局	45	0.9%
地域包括支援センター (八幡西区・八幡東区)	763	15.2%
八幡在宅医療・介護 連携支援センター	279	5.6%
その他 (歯科診療所、本人からの 直接申込他)	232	4.5%
合計	5,005	

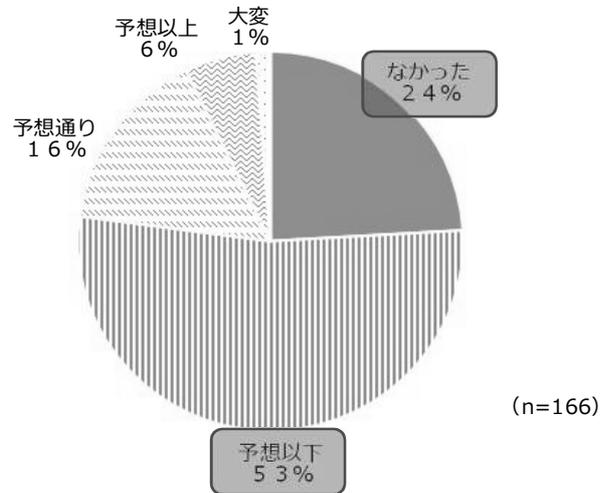
2. 説明に要した時間

→ 9割以上が10分以内 (5割以上が5分以内)



1. 患者・利用者・入所者・家族への説明負担

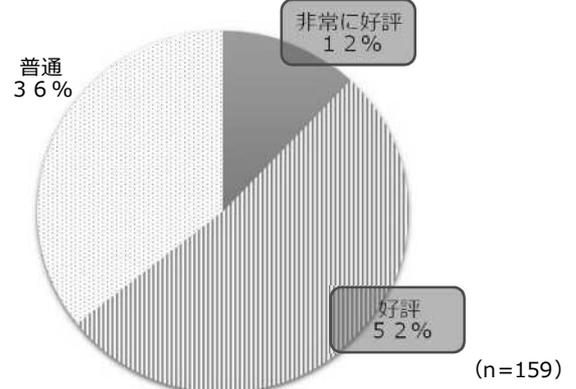
→ 約8割が「なかった」、「予想以下」



3. 患者・利用者・入所者・家族の反応

→ 6割以上が好評

※ 「あまり好評でない」、「好評でない」は0%



5. 医療関係者の声

- ・ 以前救急搬送された方の家族は、「このようなシステムがあれば安心よね」と非常に好評でした。
- ・ 独居の方は、どこで倒れたりしても家族に連絡がいく一つの手段になるのではと考えておられる方もいた。
- ・ 当院の改善活動 (TQM) において、救急外来で今年度「救急センターにおける高齢者の帰宅支援体制の構築」に取り組み、**帰宅支援フローへ「とびつめ@きたきゅう」での情報共有や情報入力を組み入れた。**
- ・ **院外の方々が申出取得に頑張ってくださいていることを知り、地域のつながりを強く感じた。** ケアマネジャーからの問合せ件数も増え連絡しやすくなってくるとよいなと思う。



6. 介護関係者の声

- ・ 日ごろからかかわっているケアマネからの説明ということもあってかトラブルはなかった。
- ・ 特にトラブルはなく、「安心」との声が多かった。システムとして機能するようになれば非常にメリットは大きいと思う。
- ・ 説明後すぐに申請される方が7割 (独居の方が多く)、家族とよく考えと言われる方が3割 (資料を渡して、後日申請される方は1割) の印象。
- ・ アニメ形式で絵による説明があり、分かりやすかった。登録後に入院された方がいたが、病院より電話があったので、「とびつめ@きたきゅうを活用できたのでは？」と思った。



7. 市民の声は？ (市民啓発時に寄せられた声)

- ・ 緊急時の連絡先だけでも登録したい。(今は健康) (70代)
- ・ 今現在、いくつかの病気を持っているが、これ以上薬を増やすことに躊躇するため、異なった症状が起きても病院に行かないので、これに登録することで、安心して受診出来るようになるのでは。(60代)
- ・ このようなことを広報する機会をたくさん作ったほうが良いと思います。高齢者・一人暮らしの方に必要な制度だと思えます。(40代)
- ・ 93歳の義母を看ているので、何かあれば情報を正しく伝えられることで命が少しでも助かれば幸いです。(60代)

8. こんなケースで役に立ちました!!

基本情報	70代後半の女性。独居。要介護認定なし。 喘息で咽頭痛、喘鳴の症状があり、正月休み期間だったことから救急外来へ受診。
概要	正月期間で、かかりつけ医は休診中。お薬手帳や持参薬はなく、家族の付き添いもなかった ため、処方薬の状況が把握できなかった。
結果	処方薬の情報 がすぐにわかり、治療に役立った。また 緊急連絡先 が登録されていたので、家族への連絡もすぐにできた。



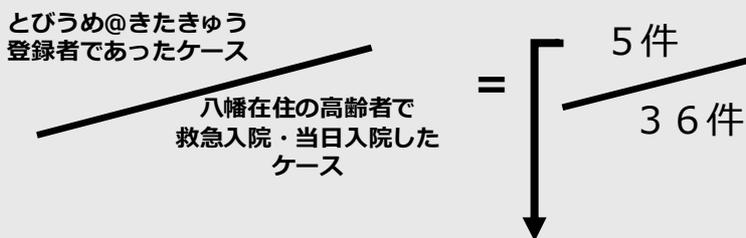
基本情報	70代後半の男性。妻と2人暮らし。要支援1。 腰椎圧迫骨折で急性期病院から転院し、当院で入院加療中。
概要	急性期病院の入退院を繰り返していた ため、情報提供書や本人への聞き取りでは かかりつけ医がわからず 、連携に困っていた。
結果	以前かかっていた医療機関や病名、処方 がわかり、かかりつけ医が判明して 退院後の受診についてスムーズに繋ぐ ことができた。

9. その他の活用事例

- ・ **入院前に入院予定の方のかかりつけ医、介護保険情報などがわかるため入院時の聞き取りがスムーズ**になってきている。
- ・ 緊急入院後に検索して、**ケアマネ事業所がわかり連絡、早期に生活状況について情報をいただき、退院支援の方向性を一緒に考える**ことができた。
- ・ **必ず担当ケアマネに連絡することで早期からの連携がよりしやすくなった。**
- ・ 救急ではなく、患者とケアマネが急患で整形を受診した。ケアマネジャーより「とびうめ@きたきゅう」登録済み患者であると言われた。**情報を持参していたが、「とびうめ@きたきゅう」を閲覧し情報を補完**できた。
- ・ ケアマネ事業所がすぐにわかるので助かっている。**ケアマネ事業所が何度も変更になる患者でもすぐにケアマネを把握**できた。
- ・ 他医療機関の処方が見れるため、重複薬の指導ができた。
- ・ **医師が他院の診療状況に興味を持たれるようになった。**

10. 登録者が増えた分はしっかり使われています

○病院で「とびうめ@きたきゅう」登録者がいた割合



約14%

うち、5件中4件は把握したケアマネ事業所に患者入院の連絡をしている。

※残り1件は、ケアマネ事業所がないことがわかった。
※八幡地区の4病院で2月下旬の2日間で測定

(参考) とびうめ@きたきゅう登録者数/八幡地区の高齢者数
= 5,005 / 98,201 = 5.1%

○検索件数(種別毎)

※期間R2.2.16~R2.2.29

種別	検索件数
救急告示病院	473件
その他病院	80件
診療所	180件
合計	733件

1日当たりの検索件数

約50件

11. どのくらいの医療機関が導入しているの？

	令和元年 6月1日時点	令和2年 3月1日時点	増減数
病院	30	36	+6
診療所	94	106	+12
合計	124	142	+18

「とびうめ@きたきゅう」
の開始に合わせ、
増加中

八幡東区・西区でのモデル実施を受け、「とびうめ@きたきゅう」を全市で活用しましょう!!

Q. **全市展開はいつから**するのか？

- A. **令和2年6月**から、市内全体の**とびうめ@きたきゅう**導入医療機関でとびうめ@きたきゅうの活用を可能にする予定
※合わせて市内全体で**登録申出書の説明・取得の方法について説明会を実施予定**
(順次案内します。)

Q. 令和2年6月**以前**から患者、利用者（八幡地区以外の北九州市民）に登録を勧めていいのか？

A. ぜひ**登録を勧めてください**。登録申出書が必要な場合は、

- 北九州市保健福祉局地域医療課 (093-582-2678)
- 門司在宅医療・介護連携支援センター (093-371-3313)
- 小倉 " (093-932-7141)
- 若松 " (093-752-1117)
- 八幡 " (093-663-7500)
- 戸畑 " (093-871-1780)
- とびうめネット事務局 (092-476-3809)

の連絡しやすい部署にご連絡ください。

Q. モデル事業での医療・介護関係者からの**アンケートの要望には対応**するのか？

A. アンケートの要望にあった例えば、

- ① **医療機関が簡単に追加情報（アレルギー・既往歴などの臨床情報や生活状況、ACPなどの社会情報）を追記できるようにしてほしい。**
- ② **登録申出書をもっと説明しやすくしてほしい。**
(登録後のスケジュールがわかるとよい、字を大きく等)
- ③ **要介護・要支援認定等申請書に「とびうめ@きたきゅう」への登録申出の欄を追加してほしい。**

について、**順次改善**を加えていく予定です。

※改善については、**北九州医療・介護連携プロジェクト会議**で検討の上、福岡県医師会、北九州市医師会の了解のもと決定します。

○とびうめ@きたきゅうの導入を希望される医療機関は、**とびうめネット事務局 092-476-3809**にご連絡ください。

○北九州医療・介護連携プロジェクトについては、**北九州市保健福祉局地域医療課 093-582-2678**にご連絡ください。

○北九州市救急医療運営検討会（R2.3.17）での主な意見

- ・救急の現場で検索し情報を活用した案件があった。病名や検査データ、内服薬もわかった。登録していただいていると、非常に有効である。
- ・院長が「とびうめ@きたきゅう」に全面的に協力すると言っている。当初は救急の現場で検索し情報を確認するのかと思っていたが、実際は医事課が情報を確認し情報があつた際に情報を持ってきてくれるという運用であった。情報がある割合も、この3月以降増えてきている実感である。
やはり登録者数が増えることが重要である。今までなかった情報があるのは有効である。
- ・当院では、まだ救急の現場から活用できたという声は聞いていない。窓口において、登録者数を増やすように適宜、人を配置するなどしている。登録者数が増加すればきっと役に立つと考えている。
- ・救急医の立場からすると「とびうめ@きたきゅう」は情報が早く入手できるため非常に助かる。病名や服薬がわかることによるリスクについては、これまでに「とびうめ@きたきゅう」を活用した結果、情報が出てしまってトラブルになるようなことは特にない。アクセスできるパソコンも限られているため、そこでしか見れない。また、患者の意識がなくても連絡先がすぐにわかるのはいいことだ。
- ・「とびうめ@きたきゅう」でわかる情報はあくまで参考であり、それだけに頼るものではない。直近1ヵ月以内に患者の状態も変わっている可能性もあるため、あくまでも参考だと考えている。全く情報がない状態よりかはよい。
- ・登録した方を当院の救急で受け入れたケースはまだない。当院としては登録者数増加に向け連携室が積極的に登録を勧めている。「とびうめ@きたきゅう」の情報については、医療機関で入手しづらい介護情報が見れるため、非常に良いと考えている。

○北九州市救急医療運営検討会について

市医師会・市内救急病院と救急医療体制の確保・対策や病病連携・病診連携等の協議を行う。
22病院（救急告示病院18病院、二次救急医療の協力医療機関4病院）で組織。

※メンバー（以下、22病院。順不同）

○九州労災病院門司メディカルセンター、JR九州病院、新小文字病院、門司掖済会病院
北九州市立医療センター、北九州総合病院、健和会大手町病院、小倉記念病院
新小倉病院、三萩野病院、九州労災病院、小倉医療センター、産業医科大学若松病院
東和病院、北九州市立八幡病院、済生会八幡総合病院、製鉄記念八幡病院
産業医科大学病院、正和中央病院、JCHO九州病院、戸畑共立病院、戸畑総合病院

○北九州市病院連携会議企画部会（R2.3.12）での主な意見

- ・「とびうめ@きたきゅう」が始まってすぐは検索してもヒットしなかったが、最近ではヒットするようになってきた。
- ・予定入院の患者より、救急で入院する患者・家族の方が登録に前向きだった。
- ・「とびうめ@きたきゅう」があるのとないのとでは、情報の取りやすさが違うため助かる。
- ・予約入院の場合は、前日までに「とびうめ@きたきゅう」で情報を確認している。検索する負担はない。
- ・予約入院の場合に患者に介護保険証の提出をお願いしている。介護保険証で連絡先がわからない場合にも「とびうめ@きたきゅう」で検索している。
- ・患者から雇っている医療機関を口頭で複数言われる。これまでは、この中からかかりつけ医を知ることはできなかったが、「とびうめ@きたきゅう」で処方を確認できるため、処方からかかりつけ医を判断できるようになった。
- ・救急搬送時等の情報取得で一番困るのは、独居の方や字が書けない方の搬送のケースである。現在、このようなケースで困った場合は地域包括支援センターに相談し協力を得ている。独居の方や字が書けない方にも登録してもらえるかは今後の課題である。
- ・入院の際に、付添人から情報が得られないこともよくあるので、「とびうめ@きたきゅう」があることは助かる。
- ・「とびうめ@きたきゅう」でケアマネジャーがわかり、早く情報が共有されるのは、効果的なことである。
- ・院内の協力を得るために医師に説明を行っている。常勤の医師には説明する時間はあるが、非常勤の医師に説明の時間を作ってもらうことが難しい。医師向けの広報物でもあると助かる。
- ・院内の協力を得る中で、医師については個別対応で説明を行っていった。
- ・今後の課題として、「とびうめ@きたきゅう」の活用でどのくらい地域にスムーズに返せたか。初動の差が影響したかなどを検討する視点があると良い。

○北九州市病院連携会議について

市内の病院の入退院支援関係部署（地域連携室等）が集まった連絡会立ち上げの希望を受ける（H30.12月現状調査説明会当日アンケート結果より）とともに、北九州医療・介護連携プロジェクトをともに考え、運用するために2019年6月に設立。現在、42病院が参加。

※企画部会メンバー（以下、11病院。順不同）

○新小文字病院、健和会大手町病院、三萩野病院、北九州総合病院、市立医療センター戸畑共立病院、戸畑総合病院、戸畑けんわ病院、JCHO九州病院、製鉄記念八幡病院西野病院